

「災害から文化遺産と地域をまもる」手法に関する事例

平成16年2月27日

目次

歴史的まちなみのある地域での防災活動（岐阜県高山市）	1
伝統的建造物の外観保存と防火性の向上（京都市祇園新橋）	2
寺社による消火水利の整備（京都市本願寺水道）	3
住民のための消火施設の整備・水環境の活用（岐阜県白川郷）	4
オープンスペースの緑地化・活用（石川県金沢市）	5
既存空間の緑地化・水利導入（東京都豊島区）	6
既存広場の防災機能の強化（東京都足立区）	7
地域における福祉活動と防災活動の連携（京都市春日学区）	8
地域伝承を活かした防災まちづくり（東京都世田谷区）	9
住民ネットワークによる防災まちづくり（京都市清水寺周辺）	10
伝統的まちなみの保全と防災のための自治体の施策（京都市）	11

歴史的まちなみのある地域での防災活動

(岐阜県高山市)

- 高山市の三町では、江戸後期からつづく町屋が多くみられるが、防火的には弱く、江戸時代以降、大火災が何度も発生している。
- ハード的な対策として、防火水槽や消火栓の整備のほか、延焼防止に役立つよう「土蔵」の改修や補強を行っている。
- ソフト的な対処としては、古くから地域の消防活動が盛んで、火の用心の夜廻りなどに受け継がれている。近年ではさらに、防災リーダーの育成や女性自衛消防隊の結成などによって、地域の自主防災力の向上が図られている。



高山市三町の商家町（まちなみネット提供・三沢博昭撮影）

伝統的建造物の外観保存と防火性の向上

(京都市祇園新橋)

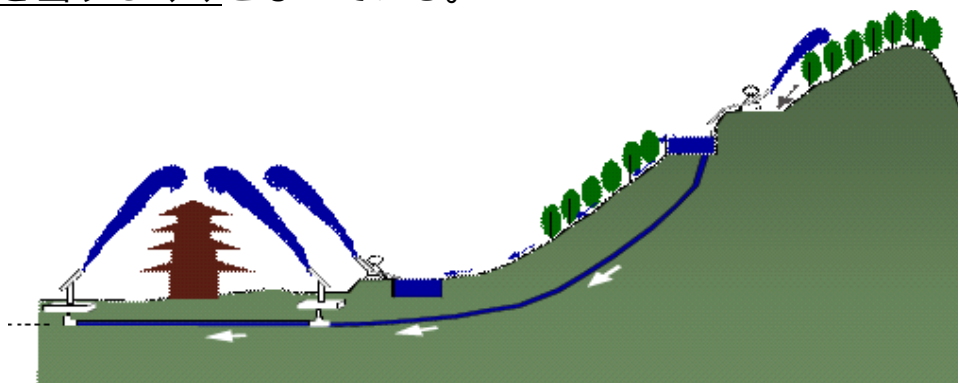
- 祇園新橋地区では、木造の伝統的町家の保存が図られているが、木造建造物は耐火性が低いため、飲食店などの建替えに際しては、木の使用などに厳しい制限がある。
- 建替えの際には、外観は伝統的な木造の町屋様式としつつ、内部構造は防火性を重視して鉄筋コンクリート造とすることにより、伝統的町家の外観の保存と防災機能の向上と両立させている。



祇園新橋 (まちなみネット提供・三沢博昭撮影)

寺社による消火水利の整備（京都市本願寺水道）

- 東本願寺は、過去数度の火災にみまわれた。
- 明治の大火後の本堂再建にあわせて、本願寺では、独自の防火用水「本願寺水道」を整備した。
- 「本願寺水道」は、琵琶湖疏水を水源とし、総延長約 5km の送水管によって、境内まで送水するものである。山腹に設けた貯水池と境内との標高差により、境内でバルブを開けば水を噴き出すしくみとなっている。



本願寺水道の概念図



1897年8月3日「噴水防火大試験」の様子

住民のための消火施設の整備・水環境の活用 (岐阜県白川郷)

- 白川郷では茅葺き屋根の合掌造りを保存しているが、火災に対して非常に弱く延焼しやすい。
- そこで、その対策として白川村では、消火栓と放水銃を集落にくまなく整備することにより、火災時の延焼を防止している。こうした設備をおさめる収納庫は、景観に配慮して屋根ぶせとなっている。
- 集落に流れ込む水を家屋や田畑などに供給する水路網が形成されており、日常時には生活・農業用水として利用されているが、非常時には消火用水として活用される。



白川郷の放水銃（左）と水路（右）

オープンスペースの緑地化・活用（石川県金沢市）

- 金沢は、武家屋敷など伝統的建造物が残るまちであるが、木造建造物が多いため、防火性は高くない。
- まちの小路や坂道の途中には、「広見（ひろみ）」とよばれるやや広い場所が存在する。広見は、戦国時代に敵を誘い込む目的などでつくられた歴史あるオープンスペースである。
- 「広見」を、延焼防止のために緑化したり、消火に役立つよう防火水槽を設置したりすることによって、まちの防災性の向上している。
- 金沢特有の「広見」を利用することにより、伝統的な景観・環境の保存と、防災性の向上の両立が図られている。



六斗の広見（金沢市提供）

既存空間の緑地化・水利導入（東京都豊島区）

- 豊島区には火災の危険の高い地域が多く、不燃促進事業がすすめられており、児童・PTA や地域の人々が参加して、住民主体の防災まちづくりが行なわれている。
- 池袋第三小学校では、敷地周辺に防火用水のための小池やせせらぎをつくとともに、道路との敷居を防火性のある生垣とした。住民主体でつくられた緑や水空間は、非常時のまちの防災性を向上させるとともに、まちの日常に潤いをもたらし、地域コミュニティを活性化に寄与している。



豊島区池袋第三小学校
（地域防災データ総覧「防災まちづくり編」（財）消防科学総合センター）

既存広場の防災機能の強化（東京都足立区）

- 足立区では、人々に親しまれるような工夫をした防災公園を整備している。
- 「防災果樹園」では、コミュニティ活動の場となるよう果樹が植えられ、日常は、地域の人々が果樹の手入れを行なう。
- 非常時には、設置された貯水槽や消火栓を消防活動に利用する。
- 「防災果樹園」は、日常時から人々に利用されており、非常時の対応も円滑に行われることが期待される。



足立区の防災広場
(地域防災データ総覧「防災まちづくり編」(財)消防科学総合センター)

地域における福祉活動と防災活動の連携

(京都市春日学区)

- 京都市春日学区では、「春日学区福祉防災地図」の作成が行われている。
- 「福祉防災地図」には、福祉活動に役立つよう一人暮らしの世帯の位置などとともに、防災活動に役立つよう消火栓や防火水槽などの位置なども記載されている。
- 「福祉防災地図」の活用などによって、平常時の福祉活動と非常時の防災活動とが結び付くことによって、実効性の高い地域の自主防災体制が構築されている。



春日学区福祉防災地図（（財）京都市・景観まちづくりセンター提供）

地域伝承を活かした防災まちづくり

(東京都世田谷区)

- 世田谷区太子堂地区は、木賃アパートが密集し、災害への危険性が高い。
- ハード対策として、延焼防止のため小広場を設置したり、防火用水確保のため暗渠をせせらぎとして復活させたりするなどの対策がとられている。
- ソフト対策として、「太子堂ガイドブック」を発行したり、地域に伝承する民話に由来した「太子堂きつねまつり」を開催したりしている。こうした、地域の文化・歴史に根ざしたソフト的な活動によって、防災性の向上と地域の活性化を図っている。



世田谷区太子堂 ポケットパーク (右) と「太子堂きつねまつり」のパンフ (左)
(地域防災データ総覧「防災まちづくり編」(財)消防科学総合センター)

住民ネットワークによる防災まちづくり

(京都市清水寺周辺)

- 京都市の清水寺付近は、路地・坂道に沿って木造建築物が並ぶ上、高齢化・少子化も進むなど、防災上の課題が多くみられた。
- 自治会や消防団など様々な住民組織が集まり、新たなネットワークとして「清水安全・安心まちづくり実行委員会」を結成し、周辺地域全体の防災について、市民が情報を交換しあったり、ワークショップを開いて議論したりしている。
- また、「清水寺警備団」が組織されており、平常時には放火などによる火災を防ぐため、パトロールを行い、災害時には、初期消火や通報、文化財の搬出を寺と協力して行うこととなっている。



産寧坂

(まちなみネット提供・三沢博昭撮影)

火災時に文化財を持出す訓練の様子

(京都市消防局提供)

伝統的まちなみの保全と防災のための自治体の施策 (京都市)

- 京都市では、平成 14 年「伝統的景観保全に係る防火上の措置条例」を制定した。
- 条例の該当地区では、準防火地域の指定が解除され、土塗り壁や木製格子戸など伝統的な外観を残すことができる。
- 本条例の適用対象として、建物内部の不燃化や、地区の防火活動の充実などを必須条件とすることにより、地域の総合的な防災性を向上させている。



京都市祇園町南側地区（（財）京都市・景観まちづくりセンター提供）